

# 戦争は言葉を変えてゆく

## ひらかた平和フォーラムでロバート キャンベルさんが語る

◎チラシ、写真データあり

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続く中、市は「ひらかた平和フォーラム」として日本文学研究者で東京大学名誉教授のロバート キャンベルさんによる講演会「戦争は言葉を変えてゆく」を、令和6年2月14日(水)午後1時30分から、枚方市総合文化芸術センター 関西医大 大ホールで開催する。市は3月1日を市独自の「平和の日」と定めており、毎年、この時期に様々な平和の日記念事業を実施している。平和フォーラムでは、講演の他、市立小中学生による平和学習の発表も予定。無料。先着800人。1月9日から申し込み開始。

- ★昭和14年(1939年)3月1日、市内にあった旧陸軍の禁野火薬庫が大爆発を起こし、死者94人、負傷者602人、家屋の全半壊焼821戸、被災世帯4425世帯を出す大惨事となった。市は平成元年(1989年)、禁野火薬庫大爆発と昭和29年(1954年)に日本のマグロ漁船「第五福竜丸」がビキニ環礁でアメリカ軍が行った水爆実験に遭遇した3月1日を「枚方市平和の日」に制定。毎年この時期に、市民に平和について考えてもらうため、関連事業として「ひらかた平和フォーラム」や、平和を祈るキャンドルイベント「平和の燈火(あかり)」を実施している。
- ★今年の「ひらかた平和フォーラム」は、第1部で枚方市立五常小学校6年生と牧野小学校6年生による広島での平和学習の発表動画を上映するとともに、ホールロビーでは枚方市立招提北中学校の生徒により制作された平和新聞を展示する。
- ★第2部では、ロバート キャンベルさんによる講演会「戦争は言葉を変えてゆく」を開催。戦争の体験は、一人ひとりが言葉に抱く意味さえ変えてしまうほど凄絶で、人の心に深い傷を刻む。昨年、ウクライナを代表する詩人が、戦火を逃れてきた避難者の支援をしながら証言を聞き取り、77の単語と物語による文芸ドキュメントとして出版。日本文学研究者であり東京大学名誉教授のキャンベルさんは、この作品を和訳すると同時に、現地を訪ね、詩人や証言者と会って、言葉の変化から平和とは何かを考え続けた。本講演ではその成果を語る。
- ★1月9日(火)午前9時から市ホームページにある専用フォームで申し込み。先着800人に入場整理券(全席指定)を送付。インターネット環境のない方等は市人権政策室へ電話申込可。手話通訳・要約筆記・保育(生後6カ月以上の未就学児で先着5人)が必要な場合は、2月2日までに要申込。
- ★その他、枚方市平和の日記念事業の一環として、3月1日(金)～3月8日(金)に市役所別館1階受付前で、「禁野火薬庫の爆発ミニパネル展」を実施。昭和14年の爆発当時の

様子を記録した写真パネルを展示する。平日午前9時～午後5時30分。無料。(土日は閉  
庁。)

<お問い合わせ> 市長公室 人権政策室 ☎072-841-1259、FAX072-841-1700